子ども読書支援センターニュース　　No.246

2024. 11. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2113　　http://library.pref.yamaguchi.lg.jp

【山口県立山口図書館から臨時閉館のお知らせ】

山口県立山口図書館は、設備改修工事のため、令和６年12月２日（月）～令和７年３月31日（月）の期間、臨時閉館いたします。

《臨時閉館中のサービスについて》

〇臨時閉館中は、インターネット・電話を使って予約申込をされた本を、県立図書館の「臨時窓口」で受け取って借りることができます。※詳しい内容は、こちらをご覧ください。→→→
〇e-net を使った、県内公共図書館での受取は、これまでと同様ご利用いただけます。

◎お問合せ先・連絡先：山口県立山口図書館総合サービスグループ
（電話：083-924-2111　FAX：083-932-2817　Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

《学校等への団体貸出について》

〇臨時閉館中も、メールやFAXでお申し込みの上、団体貸出をご利用いただけます。
館内での閲覧や選書はできません。貸出・返却は１階事務室となります。
※詳しい内容は、こちらをご覧ください。→→→

◎問い合わせ・連絡先：山口県子ども読書支援センター
（電話：083-924-2113　FAX：083-932-2817　Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。
読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（原則：毎月第一火曜日、令和６年12月から令和７年３月まではお休み）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

＜絵本ー乳幼児から＞
『かおたいそう』　むらたよしこ/作　偕成社　2024.10　¥1100
0さいのかたも 100 さいのかたも、かおたいそうでいっしょにかおをほぐしましょう。まずは、くちをおおきくあけて「ま」。つぎは、めとくちを、かおのまんなかにむーっとよせて「む」。はんたいに、めとくちを「のーん」とはなしたり、そのまま「でべぇー」とベロをだしたり。シンプルながらもリアルな表情がページいっぱいに大きく描かれ、見ても真似しても楽しめる絵本。

＜絵本ー3，４歳から＞
『こもりへおいで』　山崎優子/絵と文　至光社　2024.9　¥1400
こみちをたどり、しめったつちをふんで、もりへいくふたり。おがわをわたって、きりのなかをすすんでいくと、みあげるようなおおきなきもあれば、たおれたきのうえにめをだしたばかりの、こどものきもある。あしたもここへこようか、とかえるふたりに、またおいで、とこたえたのは、もりのこえだろうか。秋が近づく森で、自然を感じながら過ごす穏やかな時間を共有する絵本。

＜絵本ー5，６歳から＞
『うえをみて！』　チョン・ジンホ/えとぶん　斎藤真理子/やく　ハッピーオウル社　2024.9　¥1500
じこにあってあるけなくなり、くるまいすでせいかつするスジ。ベランダからみえるのは、みんなのあたまのてっぺんだけ。そんなスジにだれもきづかずとおりすぎていくなか、あるとき、ひとりがうえをみてこえをかけた。スジからよくみえるようにねそべってみせると、まわりのひともあしをとめ…。誰かの困り事を置き去りにしない社会のあり方を、スジの視界を通して描く絵本。

＜絵本ー小学校低学年から＞
『しずかなおきゃくさま』　ヌリア・フィゲラス/文　アンナ・フォン/絵　宇野和美/訳　光村教育図書　2024.9　¥1500
ひとりでるすばんしているこぎつねのところに、しずけさがたずねてきた。はじめはたべられるかもしれないとしんぱいだったこぎつねだが、どうやらわるいやつではないようだ。しずけさからおんがくなしでおどるやりかたをおそわったこぎつねは、しんぞうのおとにあわせてステップをふみ…。自分の心と静かに向き合う時間を描いた絵本。2024 年度クアトロガトス財団賞受賞。

＜絵本ー小学校中学年から＞
『四角い空のむこうへ』　由美村嬉々/文　羽尻利門/絵　晶文社　2024.9　¥1600

中学2年生のあきらの趣味は、テレビの天気予報を見ること。先天性の筋肉の病気のため、人工呼吸器につながれてベッドの上で生活する中でも、気象予報士のしんたろう兄さんにあこがれている。14 歳の誕生日に家族からのサプライズで、空がよく見える天窓をプレゼントしてもらったあきらは、気象予報士になると決心して…。実在の医療的ケア児のエピソードをもとにした絵本。

＜読み物ー小学校低学年から＞
『12 の星のものがたり』　tupera tupera/さく　Gakken　2024.10　¥2200
はるかむかしのギリシャの国の物語。天と地上を行き来して、人々とともに暮らしていた神々の物語が、詩的な文章と繊細な切り絵で描かれる。2007 年にヴィレッジブックスより出版されたものを新版として復刊。絵本やイラストレーションをはじめ、工作やワークショップ等、様々な分野で幅広く活動するユニットが手掛けた親子で読みたい星座の絵本。巻末に星座の星図あり。

＜読み物ー小学校中学年から＞
『リスたちの行進』　堀直子/作　平澤朋子/絵　新日本出版社　2024.9　¥1500
4年生の女の子、由森（ゆもり）の友達おことちゃんは、周囲には内緒で特定外来種のタイワンリスのモモちゃんを飼っている。モモちゃんは由森にも懐き始めるが、町ではタイワンリスによる深刻な問題が起こっていて…。飼育か処分かで葛藤する由森たちはある行動を起こす。動物を飼育することの責任や在来種の保存、動物と人間との共生について考えるきっかけとなる物語。

＜読み物ー小学校高学年から＞
『くらくらのブックカフェ』　まはら三桃（みと）　廣嶋玲子　濱野京子　菅野雪虫　工藤純子/著　講談社　2024.9　¥1500
白い壁に黒い屋根の蔵。そこは美味しい飲み物やお菓子と一緒に本の世界をゆっくり楽しめるブックカフェ。マスターは猫に誘われて訪れた人たちにぴったりな本を提供してくれる。5人の現代児童文学作家たちがリレーで描く、くらくらするような5つの物語。巻末には作家たちの執筆の「おとものおやつ」が紹介。作家のまはら三桃氏は山口県で数年間執筆活動を行っていた。

＜読み物ー中学生から＞
『王様のキャリー』　まひる/著　講談社　2024.8　¥1450
大人しい中2の少年勝生（かつき）は、受診した病院のロビーで憧れの有名なゲーム配信者 lion 本人と出会う。lion は車椅子に乗った同い年の少年だった。ゲームを通じて次第に打ち解けていく二人。ある日、lion はオンラインゲームのリアル大会に招待されるが辞退すると言い出す。腹をたてた勝生は…。真の思いやりを考えさせる物語。第 64 回講談社児童文学新人賞受賞作。

＜ノンフィクションー小学校低学年から＞
『12 の星のものがたり』　tupera tupera/さく　Gakken　2024.10　¥2200
はるかむかしのギリシャの国の物語。天と地上を行き来して、人々とともに暮らしていた神々の物語が、詩的な文章と繊細な切り絵で描かれる。2007 年にヴィレッジブックスより出版されたものを新版として復刊。絵本やイラストレーションをはじめ、工作やワークショップ等、様々な分野で幅広く活動するユニットが手掛けた親子で読みたい星座の絵本。巻末に星座の星図あり。

＜ノンフィクションー小学校中学年から＞
『とびたて!みんなのドラゴン　難病 ALS の先生と日明小合唱部の冒険』　オザワ部長/著　岩崎書店　2024.9　¥1500
内気な小学6年のマナミは「自分を変えたい!」と学校の合唱部に入ることを決意する。過去に子どもたちの合唱に励まされたことがきっかけで顧問となった竹中先生は、実は難病「ALS」を患っていた。互いにぶつかり合いながらも力を合わせ、目指すのは全国大会であり、自分たちにしかできない歌声を客席に届けること。ある小学校の合唱部の先生と子どもたちの感動の記録。

＜ノンフィクションー小学校高学年から＞
『マンガでわかるスマホ脳の恐怖』　川島隆太/監修　金の星社　2024.9　¥1200
便利な機械であるスマホ。しかしスマホの使いすぎは脳や体に悪い影響を及ぼす。脳の働きやしくみ、スマホと学力・集中力・健康との関係について、豊富なデータをもとに漫画と分かりやすい文章で解説する。スマホを適切に使うためのルールや留意点について考える親子で読みたい1冊。巻頭にはスマホの依存度がチェックできる質問項目あり。監修者は東北大学教授（医学博士）。

＜ノンフィクションー中学生から＞
『コタ、お前は落語家になりたいの?』　豊田寿太郎/著　今人舎　2024.4　¥1400
祖父に林家木久扇、父に林家木久蔵をもつ著者は、本書執筆時は 16 歳。落語家一家という特殊な家庭に育ち、彼自身もテレビ番組に出演したり、高座で落語を披露したりという生活を送っている。2019 年に「子ども大学くにたち」の企画に講師として携わった縁で、家族や仕事についてまとめたエッセイが本書。大人顔負けの知識と高校生らしい悩みが、テンポよく語られる。

＜研究書＞
『デジタル時代の児童サービス』　西巻悦子　小田孝子　工藤邦彦/著　近代科学社 Digital　2024.7　¥2400
読書ボランティア・学校司書・司書教諭・大学図書館司書・公共図書館司書と、様々な立場から子どもと本をつなぐ仕事に携わっている著者3人による「児童サービス」の解説書。第1章では児童サービスの役割、第2章では子どもと本をつなぐ方法、第3章ではデジタル環境における児童サービスを、具体例を挙げて解説。巻末の参考文献には、引用先の URL・二次元コードを掲載。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC）では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。
山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary